



第56号
 発行者
 全国国公立幼稚園・こども園
 PTA連絡協議会
 会長 猪木直樹
 事務局
 岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
 玉島テレビ放送(株)内
 印刷
 株式会社玉島活版所

「光陰可惜」

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会

会長 猪木直樹



「ONE TEAM」昨年ラグビーのワールドカップを通して流った言葉である。いろいろ問題があろうとも、一つの目標に向かって選手もスタッフもファンも含めて、みんなが一丸となり戦った結果、一つになれば何かを成し遂げられることを証明してくれたことは、記憶に新しいことと思います。よくよく考えれば「ONE TEAM」は我々全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の組織にも当てはまると思います。地域が違えど、規模が違えど、環境が違えど、子どもたちのためにという大きな目標に向かって、先生方や地域の方、そして保護者が一丸となって前に進むことで実現していく、まさにそのものだと思います。これからも「ONE TEAM」の精神でトライできたらと思います。改めて令和二年の念頭にあり、謹んで新年のお慶びを申し

上げます。また、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会員の皆様ならびに関係各位におかれましては、平素より本会の運営と活動に対し、ご理解・ご支援をいただいておりますことに心より感謝とお礼を申し上げます。平成という時代が幕を閉じ、新しい時代に期待を大にしていることとありますが、昨年全国各地で自然災害による大きな被害が報告されました。また、信じられない事件事故も一向に無くなりません。今年こそはすべての人が幸せであることを願うばかりです。どうぞ信じて前に進んでいきましょう。子育て困難な時代に一人一人が未来の創り手となっていくためには、幼児教育、小学校教育、中学校教育、高等学校教育、それぞれの在り方を考えつつ、幼児教育から高等学校教育まで見通しをもった教育が展開されていくことが、これまで以上に重要であると思います。そのスタートである幼児教育をいかに充実したものにすることが、益々我々の責務であると感じています。

令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰

令和元年8月9日第57回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「茨城大会」において表彰式が行われた

- 岩手県 軽米町立軽米幼稚園PTA
- 福島県 さくら幼稚園保護者会
- 東京都 のびっこ園台場・台場幼稚園PTA
- 山梨県 山梨大学教育学部附属幼稚園PTA
- 静岡県 静岡市立大谷こども園PTA
- 兵庫県 神戸市立魚崎幼稚園PTA
- 岡山県 総社市立昭和幼稚園PTA
- 徳島県 藍住町立藍住北幼稚園PTA
- 香川県 三木町立氷上幼稚園PTA
- 愛媛県 久万幼稚園PTA



とんどが幼小の接続の重要性を認識しているものの、その取組は十分とはいえない状況であるというものだった」と報告がありました。益々我々PTAの力を発揮する時だと思えます。幼児期の教育は環境を通して行うこと、つまり幼児を取り巻く人的・物的要素、全てを通して幼児を導くことです。幼児の生活や経験からの学び、自発的な活動を重視して下さっている国公幼に感謝しながら、他の団体との連携を密にし、各地域の想いをしっかりと受け止め、夢ある社会実現のために日々精進していきましょう。

本年八月には、富山県において「とことん富山で やさしい心をもちよって まあるく和になり 語らんまい こどもの未来を」をテーマに掲げ、全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 富山大会が開催されます。是非、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。我々が幼児教育に携われるのは短いものかもしれませんが、子育てと考えればまだまだ長きに渡りかわっていかなくてはなりません。「何が貴いといっても子どもと過ごす今、この時期ほど貴いものはなく、何を惜しむべきとって時間ほど惜しむべきものはなし」と強く思います。まさに光陰可惜(こういんおしむべし)

特別寄稿

賢く・元気に・機嫌よく！

子どもが育つ「早寝早起朝ごはん」の勧め

国立青少年教育振興機構

理事長 鈴木みゆき



日本の子どもは夜更かしで睡眠不足

夜九時過ぎにコンビニとかファミレス、居酒屋とかレンタルビデオ屋、カラオケ店とかで小さな子どもを連れて親子連れを見たことがある人いらっしゃいますか？そう、日本の子どもは本当に寝てないのです。ミンデルという有名な睡眠学者が国際比較した調査では、最下位から二番目という位置にいて、子どもたちの睡眠不足は深刻な状況にあります。とはいえ昔からずっと夜更かしだったわけではありません。昭和十一年の調査では2歳児の半数以上は夜七時台に寝ているのです。保護者の方はよくご存じかもしれません。「ねないこ だれだ」（せなけいこ作 福音館書店）という名作絵本があります。最初のページは時計です。「こんな時間に起きているのはだれだ？」と問いかけ、夜中に

遊ぶ子はお化けになってお化けの世界に飛んでいけ、というちよつとシニカルけどあたたかな絵本です。最初のページの時計は何時でしたか？そう！九時なのです。九時は「こんな時間に：」で「夜中」で「お化けの世界」なのです。一九六九年の作品ですから、早や半世紀。大人も子どもも生活時間が後ろにずれて遅寝になりました。

早寝早起朝ごはんの科学的根拠

動物というのは、朝、光とともに目覚め、夜の闇とともに眠ります。そういう一日の中でそのサイクルに適した時計を体の中に持っています。体内時計と言われているものです。体内時計は光とともに目覚め、闇とともに眠るサイクルで動いています。夜になると休むというところで夜間の睡眠が必要になります。もちろん睡眠中も何らかの刺激や異変があれば、必要に応じて目を覚ますことができます。救急車の音や地震が起きた時にハッと起きるということですね。つまり、脳が疲れたので休ませる、暗くなると体内時計が休むよう促すので休むという二つの理由によって睡眠が起きます。

眠として知られていますが、情報を整理し記憶を消去したり蓄えたりしています。睡眠は脳と体をしっかりと整備していく、そういう役目を持っているのです。さて、一日の生活の中で、私たちの体の中にリズムをもっているものがあります。これを概日リズムと呼んでいます。図一をご覧ください。成長ホルモンは寝入りばなの深い睡眠時にドバッとでます。骨を伸ばしたり筋肉をつけたりする重要なホルモンで、新陳代謝やケガの修復にもかかわっています。保護者の方は毎年靴のサイズが変わらないかもしれないけれど、お子さまたちは毎年大きくなります。その「大きくなる」を支える大切なホルモンです。メラトニンというホルモンがあります。何をしているかという、抗酸化作用と言いまして活性酸素の毒から体を守るホルモンです。もう一つ大きな役目があります。思春期がくるまで第二次成長と呼ばれる、ひげが生えたり、声変りをしたり、胸が大きくなったり、初潮がきたりするのを抑制するホルモンです。そのホルモンは実は、年齢に依存して、乳幼児期がたくさん分泌されるので、今まさに子育て中の保護者の皆様は、ちょうど我が子がメラトニンシャワーを浴びていると思っただけとよいでしょう。

う。しかしメラトニンには一つ欠点があります。光に弱いのです。子どもたちを寝かせる時に、よく怖いアプリをスマホとかタブレットとかで使ったりすることには2つの意味で反対です。一つは光が強いことです。スマホとかタブレットの中にブルーライト系が入っていますので光が強い。実はメラトニンは強い光を浴びるとまだ脳が昼間だと勘違いをして分泌が遅れるというデータがもう出ているのです。二つ目。寝る直前に怖い体験をさせると深い睡眠を減らすというデータがあります。寝る直前の怖いアプリはできれば避けたほうがよいと思います。私たちは目覚めると起き上がり、体温を上げて脳と体を使い始めます。体温を上げるため、脳と体を使うためにはエネルギーが必要で、それが朝ごはんを必要とする理由になっています。一汁三菜とは言いませんが、できればエネルギーに変りやすいものを食べてから登園できるといいですね。日中子どもたちの遊びを支えるエネルギーチャージが朝ごはんなので、ぜひ元気に遊べる必要分をチャージしていただければと思います。以上、子どもたちに必要な生活習慣の科学的根拠について述べました。もちろん日々の生活で忙しく、手間をかけるのが難しい場合

様々な概日リズム (睡眠・覚醒・ 体温、ホルモン) の相互関係

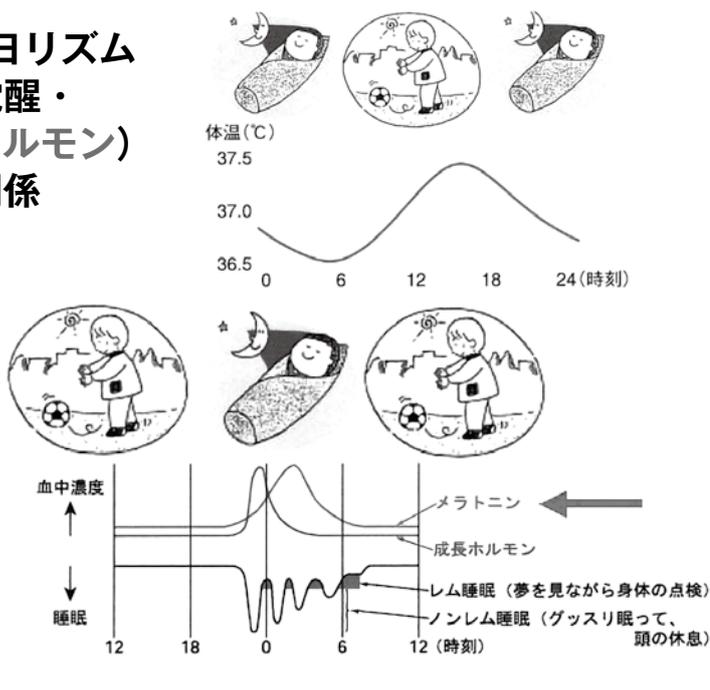


図1 睡眠・覚醒・体温・ホルモンの概日リズム (「子どもの睡眠-眠りは脳と心の栄養」 神山潤 2003)

もあるでしょう。合言葉は「でき
ることから始めよう」です。早寝
をいきなり強要しても寝つきがよ
くなるとは思えません。日中元氣
に遊び、疲れてぐっすり眠れば機
嫌よく目覚めることができるで
しょう。おなががすいて朝ごはん
もしっかり食べて脳にエネルギー
チャージが可能になります。幼稚
園・こども園では子どもの主体性
を大切にしたい保育が行われてい
ます。賢く・元氣に・機嫌よく！未
来を創る合言葉だと信じて。

第五十七回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 総会ならびに研究協議会

茨城大会

大会報告

日本百名山の一つ、筑波山の禁。そして、世界のあしたが見えるまち、茨城県つくば市において「茨城大会」が、文部科学省をはじめ多数のご来賓をお迎えし、盛大に開催されました。「みんなで育むこどもの笑顔」といふことのすばらしさきづくために」と掲げ、家庭環境や子育て意識が多様化する中、子どもたちが健やかにのびのびと成長することができる良い環境を構築することが保護者の共通の願いであり、責務でもあることを確認し合い、多くの気付きや学びを得ることができた二日間でした。

すばらしさ、幸せに生きるために」という演題で『ほめて育てる』こと、『感謝する心』の大切さを分かりやすくお話していただきました。

また、PTAの魅力や存在意義を改めて社会にアピールしていくと共に、園・家庭・地域社会に行政を加えた四輪駆動の連携で、さらにつながりを大切にしていきたいと感じた大会でした。

大会要項

一 大会主題

みんなで育むこどもの笑顔
〜いづくじのすばらしさ
きづくために〜

二 期日・会場

令和元年八月九日(金)
八月十日(土)
つくば国際会議場エポルカ

三 日程

八月九日(金)

記念講演では、講師の女優 羽田美智子さんが「夢をもつこと



第五十七回 茨城大会
表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会会長表彰

全幼P監事

滋賀県 山岸芳子

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会会長感謝状

徳島県公立幼稚園・こども園
PTA連合会



令和元年度活動方針
ならびに事業計画

一 活動方針

「天上天下唯我独尊」この言葉は、世の中に生を受けたすべての人は一人一人みな尊い存在であるという意味です。だからこそ我々全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会はこの言葉のように、すべての子どもたちの能力を伸ばし、可能性を開花させる礎となる幼児期の教育を充実したものにしなければなりません。そのためには家庭・園・地域社会と協力して、チームとして未来に繋げていかなければならないと思います。改めて言うまでもなく幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであり、近年の国際的な研究成果により、その重要性の認識は益々高まっています。少子高齢化が進んでいることや保護者の働き方の変容など、社会環境が変わり続ける中、すべての子どもたちに質の高い幼児教育が提供されなければなりません。そのために、昭和三十八年結成以来、半世紀にわたり積み上げてきた歴史と実績をもって、これまでの取組を大きく前進させ、地域が直面する様々な課題の解決に向けて全国国公立幼稚園・こども園長会と協働していきたいと思えます。

全国組織のPTA活動を通して、子どもたちの健やかな成長を目指すには、我々大人も様々な考えを吸収し、知識を蓄え子どもと共に成長していかなければなりません。子育てにおいて第一義的責任を有する我々が、子育てやPTA活動等を一生懸命すればするほど、どんなにその時は大変だと感じた出来事があるうとも結果的には家族の結束を強め、地域のひととの絆も深いものになり自分を成長させてくれるものになると信じています。まさに「禍福はあざなえる縄のごとし」です。だからこそあらゆる面において全国組織の強みを発揮し、子どもたちのために活動を充実発展させていきたいと思えます。

推進

- 四、家庭・地域の教育力の向上
- 五、情報共有の強化
- 六、国公立幼稚園・こども園教職員への待遇改善

八月～十二月

- ・会計監査、役員会、第一回理事会
- ・第五十七回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「茨城大会」総会ならびに研究大会
- ・茨城大会決定事項の処理
- ・会報五十六号原稿依頼
- ・富山大会開催について事前打合せ、表敬訪問

二 事業計画
四月～五月

- ・加入園へ会費納入と茨城大会案内状発送
- ・未加入園へ加入依頼書と茨城大会案内状発送
- ・平成三十年度会務報告と決算報告書作成
- ・令和元年度理事名・加入園名報告依頼
- ・全幼P全国大会「茨城大会」の後援名義使用許可願発送
- ・茨城大会の助言者依頼
- ・令和二年度全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「富山大会」における提案発表について依頼
- ・日P広報に関する研究会

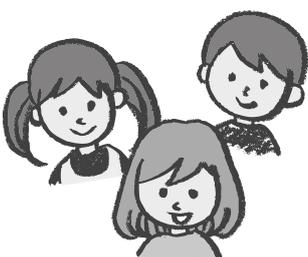
一月～三月

- ・会報五十六号発行
- ・未加入園へ加入呼びかけ
- ・令和元年度会務報告・会計決算中間報告書・令和二年度会計予算案作成
- ・第三回理事会
- ・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会フォーラム参加

記

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、どんな時代背景であろうとも、すべての子どもたちが笑顔いっぱい成長していくために、また、すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられる環境構築のために、他団体との連携を密にし、以下の項目の実現を目指した行動の推進を活動方針とします。

- 一、義務教育化を前提とした幼児教育の充実
- 二、会員の資質向上と組織強化
- 三、幼児の安全確保に向けた事業



研究協議

提案発表1

親の笑顔は子の笑顔 〜未来を担う〜

かぜのこたちのために

長野県 松本市立本郷南幼稚園

令和元年度PTA会長

庄野 千春



流も行われています。

二、園の概要

本園は昭和五十年開園で、今年度の園児数は三歳児十九名、四歳児十八名、五歳児二十二名の合計五十九名です。近くには保育園、公民館、児童館があるなど、地域との交流しやすい環境にあります。

園庭には青々とした芝生が生え、大きな築山もあり、元氣よくのびのびと遊ぶことができます。さらに園の隣には、市の大きなグラウンドがあり、毎年このグラウンドを借りして盛大に運動会を行っています。また、本園には、「風の子像」というものがあります。これは、開園十周年記念時にPTAが、松本在住の作家さんに依頼して作っていただいたもので、「子どもは風の子でありたい」との願いが込められています。そうして、この像にちなんで、本園の園児たちを「かぜのこ」と呼ぶようになりました。

三、組織と概要

PTAは会長、副会長、庶務、会計、クラス代表、文化部、厚生部から成っています。各役員、各部が主体となって様々な活動を行っています。私たちはPTA活動をするにあたり、子どものために活動するということはもちろんのこと、せっかくなら親も楽しみたい

い、という気持ちをもっています。

「親が笑っていれば、子どもも楽しくなるはず。そして子どもが笑っていれば明るい未来につながる」そんな風に思っています。

①縁(園)の下の力持ち

奉仕活動として、園のためにできる奉仕活動を年間を通して行っています。

一、園庭や砂場の整備、近隣の木の落ち葉拾いや、大雪が降った際の雪かき、園舎の大掃除といった、設備に関する作業です。

年に一度行われる土曜参観日には、お父さん方の力も借りて、プールの組み立てなども行っています。

二、子どもたちの情操教育に必要な観劇代などにかかる費用として、アルミ缶の収集作業をしています。

三、子どもたちが使うおもちゃなどに交換してもらえる、ベルマーク、テトラパック、インクカートリッジの収集作業も行っています。

②見守り隊

朝の登園時には、有志の保護者が「交通安全見守り隊」として子どもたちを見守っています。黄色い横断旗をもち、道路を渡る園児が安全に登園できるようにしています。

ます。

③思い出作り

年度末に、文集「かぜのこ」を発行しています。これは、子どもの成長を文集という形で残していくもので、子どもの素朴な日々のつぶやきなどを、お父さん、お母さんたちが、一ページずつ紡いでいくステキな思い出となっています。

これらは、子どもたちにとって、より良い環境や、愛されているという安心感の中で育つために、親としてできる、まさに縁の下の力持ちとなる活動だと思っています。

④おかいものごっこ

毎年七月ごろにPTA主催で「おかいものごっこ」に取り組んでいます。これは、普段子どもだけでお買い物をすることができない子どもたちが、実体験するというものです。その際の商品は、保護者の手作りおもちゃです。

おもちゃ製作時には、保護者同士の交流にもなり、ストレス発散や、育児不安、親の孤立を防ぐという作用もあり、みんなで子育てをしていこうという雰囲気を作っていると感じています。

買い物は、実際にお金をやりとりします。自分の買いたい物を売っているお店に行き、ちゃんと並んで「これください」とお金を渡します。店員になった保護者は、ドキドキしながら買い物をします。

どもたちを見守りながら、楽しんでいきます。

この売り上げ金は、園児の観劇代などに還元され、この後に園主催で行われる夏祭りや、年長の子どもたちが、お店を開く導入にもなっています。

⑤親も楽しい活動を

〜コーラス部

音楽活動が盛んな松本市は、とてもたくさん歌を歌います。その歌声は、子どもだけにとどまらず、保護者たちにも広がり、本園には四十五年も続く伝統のコーラス部があります。子どもを園に預かってもらっている間に練習を積み、子どもたちの前で発表します。子どもたちは、キラキラした目で聴いてくれて、コーラス部員は、歌いながらも癒されています。

〜期間一年、申請型サークル〜
今までは、〇〇部というように活動していた部がありました。活動しても次へ引き継ぐのに、なり手がなかったりして、廃部ということになっていました。そこで、期間を一年と決め、活動した人が三人集まれば、サークルとして活動できるという形を考えた。

活動の種類は何でもOKで、場所の提供や、物資の斡旋など、少しですがPTAから補助していただきます。育児の合間のリフレッシュや、趣味を通じて、親同士の友達づくりのきっかけになればいいな

と思います。今年度は、ハンドク
ラフトサークルが発足し、学年を
越えた、保護者同士の交流にもつ
ながればよいと期待しています。

四. 市全体での交流

(市の要望)

冒頭にもふれましたが、松本市
には市立幼稚園が三園あります。
この三園は毎年、松本市議会議員
さんのご協力の下、松本市こども
部へ様々な要望を提出しています。
日ごろ幼稚園に通う中で、改善
してほしいと思ったことを、市議
会議員さんと一緒に直接市に要望
することが出来ます。それを踏ま
えて、市から様々な対策をしてい
ただいたり、意見をいただいたり、
より良い環境の下、幼稚園生活を
送ることができています。

～スポーツ大会～
年に一度、三園の保護者たちの
交流の機会として、合同スポーツ
大会が開催されています。近年で
は、「ワンバウンドふらばふるパ
レー」を行っています。これは、
ふらばふるという、軽量な変形
ボールを使ったバレーボール型の
スポーツで、バレーボールをした
ことがない人でも、平等に楽しむ
ことができます。このスポーツ大
会を通して、自分の園はもちろん
のこと、他の園の保護者とも交流
することができます。

三園合同の会報誌を発行し、そ

それぞれの園の先生方の紹介や行事
の様子がわかり、毎年とても楽し
い内容になっています。

五. 課題とまとめ

一昨年あたりから、松本市の幼
稚園でも、降園後の預かり保育が
本格的に始まり、年々働く保護者
の方が増えてきました。今まで全
面的に、幼稚園の子どものために
協力してくれていた時間に制約が
かかり、PTAとしての大きな取
り組みや、役員の確保が難しくなっ
てきていると感じています。そ
れでも「公立の幼稚園に子どもを
通わせたい」「親として子どもや
園に関わりを持ちたい」「親同士
のつながりや交流を持ちたい」と
思っている保護者の方が多いと信
じて、本PTA活動を引っ張って
いきたいと思っています。

仕事を持っていて、入園前の
子連れであっても、自分のできる
範囲で、お互いが補い合える、親
も子も幸せになるPTA活動にし
ていくことが、今後の課題になっ
てくると思います。

本園のPTA活動の目的は、子
どものため、お世話になっている
園のためにあると思っています。
あくまでも、園のサポートであり、
縁の下の力持ちでありたいと思っ
ます。

そして、その活動を円滑に運ん
でいけるようにするのが、本部役
員の役割であり、そのきつかけと

なるのが、数々の交流体験なのだ
と思っています。その交流の中で、
親としての自分の居場所や、活力
を生み、「ちょっと面倒な活動も、
せっかくなら楽しもう!」「親も
幸せになろう!」という気持ち
湧き上がってきてくれたら、うれ
しいなと思いつながりながら日々活動して
います。

近年、人と人とのつながりが、
希薄になりつつある中でも、ここ
松本は、自然と文化、伝統に育ま
れ、たくさんの人との交流をもつ
機会が多い、とても人にやさしい
街です。

こうして、この地で親となり、
子どもを通じて様々な人たちに出
会えたことに感謝し、共に親とし
て成長できる仲間作りの場に、こ
のPTA活動が役に立てばいいな
と思います。

それが、きつと未来を担うかぜ
のこたちのためになると信じてい
ます。

提案発表Ⅱ 保護者間のつながりと幼児

のよりよい成長を願って

群馬県邑楽町立中野幼稚園
平成二十九年PTA会長

橋爪 由香里



一、はじめに
邑楽(おうら)の邑(おう)と
いう字は、「ムラ」と読むことが
多く、邑楽町は「楽しいムラ」と
もいえます。中野幼稚園は町のほ
ぼ中心地にあり、北は田園地帯、
南は閑静な住宅街が広がり、主要
道路から少し離れたところに位置
しております。

さて、群馬県には、県の名所や
偉人を詠んだ『上毛カルタ』とい
うのがありますが、その中で「鶴
舞う形の群馬県」と歌われている
ように、鶴が翼を広げたような形
が群馬県です。そして、その鶴の
頭の部分に邑楽町があります。最
も有名なのは、宇宙飛行士向井千
秋さんの出身地館林市は隣町にな
ります。

二、本園PTAの概要

中野幼稚園は、昭和三十九年に
一年保育として開園しました。当
時は、保護者会として始まりまし
たが、昭和四十三年からPTA
として活動しております。昭和
五十三年に、二年保育となり、園
児数三百人を超える大規模園とな
りました。平成八年から三年保育
となり、現在は園児数九十三人、
親子孫と利用している家庭も多
く、地域に根ざした幼稚園となっ
ております。PTA会員数は百二
人です。本園には子育て支援セン
ターも併設されており、その先生
方もPTAに加わっていただいで

おりますので、教師の人数が十六
人となっております。本部役員は
各学年三人ずつの九人と先生が三
人、学級委員はクラス三名ずつ
で六クラスあるので十八人、役員
の合計が三十人です。少子化の波
が本町にも押し寄せているところ
です。

三、PTA活動について

PTA活動につきましては、P
TA独自行事と園との共催行事や
参加行事となっております。

独自行事につきましては、PT
A総会・夏まつり・教育講演会・
親子活動・PTA新聞発行・古紙
回収・除草作業・ベルマーク活動
などがあります。

○PTA新聞

年三回発行しております。本部・
クラス委員で担当し、園での幼児
の様子やPTA活動の様子の写真
に参加者のコメントをつけたり、
お得情報を載せたりして、楽しい
紙面を心掛けております。

○古紙回収

昨年度初めて行いましたが、収
益金をバス旅行代にし、保護者負
担を少し軽減することができまし
た。今後もし続けていく予定です。

○除草作業

年二回行っております。広い園
庭をみんなで手分けして草取りを
行います。

○夏まつり

PTA主催の中では、最も大き

な行事で、主催をするPTA本部

やクラス委員としては大変ですが、子どもたちにとっては最も楽しい行事です。例年の積み重ねとその年その年の本部役員の創意工夫、新たな発想の元に企画運営し、夏のひとつを、両親・祖父・兄弟姉妹も園に訪れ園児と一緒に楽しむことができます。毎年いろいろと趣向を凝らし、親子で踊ったり、子ども神輿（各学年のアイデア満載）を担いだり、抽選会やゲームなど、手作り感満載の夏まつりとなっております。

また、毎年ボランティアの方たちにポップコーンを販売していただき、夏まつりを盛り上げるとともに、売上金をPTA活動費に寄附していただき大変助かっております。

近年、仕事の都合でなかなか参加できない保護者もいる中、園と協力して参加しやすい日程や内容を検討して皆さんに協力してもらっています。

次に、昨年度優良PTAとして群馬県教育長表彰を受けた、教育活動についてご紹介いたします。

毎年十一月に実施しております。年少組は、親子で、パネルシアターを観ます。地域のボランティアの方にお願ひし、親子で一緒にお話を聞いたり、パネルの動きに合わせて歌を歌ったりと楽しい時間を過ごします。

年中・年長組は、合同で行い、親子製作と親子ふれあい体操を隔年で実施し、保護者同士の触れ合いも行われ親子で楽しんでいきます。親子製作では、講師を招いて紙飛行機や木工に取り組んでいきます。親子触れ合い体操では、講師にボランティアで来ていただき、面白おかしく親子で身体を動かしたり、保護者同士が童心に返って動き回ったりと、親同士の関わりも深くなってきました。

年少組対象に、六月に行っております。栄養士さんから、食の大切さのお話やエプロンシアターをもちいて偏食指導など親子と一緒に観た後、給食参観をし、お話を思い出しながら楽しく給食を食べました。

家庭ではなかなかできないことを専門の先生に聞くことで、親としても大変勉強になります。

○保健師さんのお話
年長組対象に行います。幼児向けに、歯磨きの大切さをお話していただいた後、保護者向けに予防注射についてお話があります。

○教育講演会
毎年保育参観と同日に行っております。年度当初から、本部役員で聞いてみたい講話について検討し、子育てについて、親として大切なこと、親自身のためになる教養など、その年その年で決めて、園と協力して講師の先生を決定、依頼しております。

○栄養指導
年少組対象に、六月に行っております。栄養士さんから、食の大切さのお話やエプロンシアターをもちいて偏食指導など親子と一緒に観た後、給食参観をし、お話を思い出しながら楽しく給食を食べました。

一昨年は、県の保育アドバイザーを派遣していただき、『子どもの今を大切に』という演題のもと、『遊びを通じた教育が大切であり、一緒に遊んでください』と温かなメッセージをいただき、中には、『名前を呼ぶ、手をつなぐ、抱きしめる』のお話に感動で涙ぐんでいた保護者もいました。

○親子活動
毎年十一月に実施しております。年少組は、親子で、パネルシアターを観ます。地域のボランティアの方にお願ひし、親子で一緒にお話を聞いたり、パネルの動きに合わせて歌を歌ったりと楽しい時間を過ごします。

昨年、読み聞かせの講演でしたが、講師の話術にはまり、笑いあり涙あり、お土産ありのあつという間の一時間でした。難しいお話で反省するばかりの講演よりも前向きになれ、すぐに実践に移せるお話で、お父さんの参加も多く実になる講演会でした。

以上のようにPTAのための教育活動も長年続けております。保護者の年齢層も広くなり、また、家庭環境も変わってきておりますが、子どもの健やかな成長を願うのは、いつの時代も同じです。今後も保護者のニーズにあった教育活動を続けていきたいと思っております。

三. 本園の課題について
修了児を調べたところ平成の初めには百名を超えていた修了児が、昨年は四十二名と半分以下となっております。少子化と働くお母さんが増えてきているということだと思います。これからのPTA活動については、役員組織を変えたほうがいいかなと考えているところです。本部役員はそのままとし、本園で行っているサポートクラブを全員参加の所属する形を取れば、クラス委員はなくても全員PTAとして活動が続けられるのかと思います。他の園の様子なども聞きながら今後取り組んでいきたいと思っております。

女子師範学校附属幼稚園と改称、昭和二十六年に岡山大学教育学部附属幼稚園と改称され現在に至ります。

現在の園舎は昭和四十八年に完成し、緑豊かな環境の中、子どもたちはいきいきと園生活を送っております。教育目標には「自主自律豊かな心でたくましく」を掲げ、一人一人の確かな育ちを保障する保育、心の通う家庭・地域との連携を目指し、質の高い幼児教育が行われています。

提案発表Ⅲ
親は子どもの応援団
時代在即した
これからのPTA活動

岡山県
岡山大学教育学部附属幼稚園
平成二十九年 青桐会会長
宮下 裕章

二. 青桐について
本園のPTAは、園庭の青桐の木に由来して「青桐会（あおぎりかい）」と呼ばれています。

戦争によって焼け野原になった園庭にあり、ほとんど根だけになった青桐の木が再び芽吹いてきました。まだ若芽だったので、その成長をしっかりと見守る必要があり、その青桐の木が成長する様子子どもたちになぞらえたのが青桐会の由来です。子どもたちの幸せ、



一. 本園の概要
本園は、明治十七年九月に、岡山県師範学校附属幼稚園として開設され、今年で創立百三十五年になります。明治四十四年に岡山県

女子師範学校附属幼稚園と改称、昭和二十六年に岡山大学教育学部附属幼稚園と改称され現在に至ります。

健全な成長を図ることを第一に、保護者と教職員が園及び家庭で協力し活動しています。

三. PTA組織と活動紹介

青桐会では、一人一役制による全員参加型のPTA活動を行っています。平成二十一年度より一人一役制を導入しました。重視しているのは、保護者全員が参加する意識を持ち、PTA活動を通じて、子どもたち、幼稚園と関わることで、園と一緒に子どもたちの成長を見守ることです。

青桐会は、女性保護者を中心とした四つの委員会と男性保護者会のDADで構成されております。

○総務委員会

総務委員会には、クラス委員とバザー委員があり、青桐会全体行事の企画、運営、収支に関する事業を行います。クラス委員は連絡網、保護者の親睦を深める懇親会の企画、運営、園行事のお手伝いの取りまとめを行います。バザー委員は例年秋に開催する青桐バザーの企画運営を行います。

○文化委員会

文化委員会には、講演会委員と絵本委員があり、青桐会会員の教養を高め、親睦を図る事業を行います。講演会委員は学期ごと年三回の保護者対象の講演会の企画、運営を行います。本園園長、副園長の講演に加えて、外部の講師の先生をお招きして実施していま

す。絵本委員は絵本の読み聞かせ、貸出当番の世話などを行います。また春と冬に絵本の頒布会を行っています。

○厚生委員会

厚生委員会は、交通安全委員、親子遠足委員、環境整備委員で構成されています。交通安全委員は、交通安全教室の企画運営を行います。親子遠足委員は親子遠足の企画運営を行います。環境整備委員は自転車点検の実施や園の環境美化に関わる活動をしています。

○広報委員会

広報委員会では、一年間に三回、学期ごとに発行する広報誌「あおぎり」の作成を行っています。昭和四十一年に第一号が発行され、現在では百五十号を超えています。

○DAD

男性保護者会をDADと呼んでいます。DADとは、「Daddy's Association of Delight」の略で、「ゆかいなお父さん達の会」を意味します。平成九年よりスタートし、二十年以上の歴史があります。男性保護者同士の親睦、交流を図りつつ、幼児教育に対する理解と教育活動の一層の充実を図るための事業を行っています。

青桐会では「親は子どもの応援団」であるという思いのもと、子どもたち、そして保護者の園生活がより楽しく、安全・安心なものとなるよう活動しています。

四. PTA活動の問題点と課題

青桐会では毎年年度末に保護者を対象にアンケートを行い、活動内容の見直しを行っています。平成三十年度のアンケートでは、一人一役制が平成二十二年度の開始から十年が経ったことを踏まえ、一人一役制のあり方に焦点を当てました。

まず、一人一役制の趣旨を知っているか、という質問では、89%の保護者が知っていると回答しました。アンケートにあらためて趣旨を掲載し、一人一役制の趣旨の保護者への再認識と周知も目的とした質問でした。

また、一人一役制についてどう思うかという質問では、70%以上の方が賛同しているということがわかりました。選択の理由を自由記述形式で回答してもらいましたが、「とても良い」「良い」と回答した方の主な理由は、PTAの一人員として責任をもって参加できた子どもたちの園生活に関わる良い機会となった、などPTA活動の目指す姿を実感している保護者が多くいました。また、保護者同士仲良くなるきっかけとなった、みんなが役員を務めるという公平性にもつながっている、という回答もありました。

一方で、「あまり賛同できない」「賛同できない」「どちらともいえない」の主な理由は、弟妹の世話や仕事、家庭の事情で全ての活動

に参加できない、会員一人一人の活動に対する意識に温度差がある、担当する委員によって活動内容に差がある、時間を要する活動が多い、過去のマニュアルに縛られすぎている、などPTA活動の改善が必要と考えられる意見があることが分かりました。

五. PTA活動の見直し

アンケート結果を受けて平成三十一年度は以下の活動内容の見直しを行っています。

①織変更による活動量の平等化

平成三十年度は、園行事とバザーを担当する総務委員長と三つの委員会をまとめる厚生委員長に負担がかかっていたため、それぞれの委員長の負担軽減を目標として、総務委員会にあったバザー委員会をバザー委員として独立させ、厚生委員会にあった環境整備委員会を文化委員会に移し、文化・環境委員会と改称しました。

また、各委員会の活動量の差を少なくするためには、各委員会でのコミュニケーションの強化が必要だと認識し、活動回数を共有したり、委員会の枠を超えて協力できることはないかを模索したりしています。

②PTA活動のスマート化

今までのやり方を工夫し、内容を精査することで効率化、簡略化を行うのがPTA活動のスマート化です。

具体的には、十月に行われていた全員参加の園内清掃を年長、年少児の保護者が担当し、ボランティアで保育時間外に行っていた十一月の研究会の準備清掃は年中児の保護者が担当することにしました。大まかな担当学年は決まっていますが、それぞれの日程で都合がつかない場合は、学年の枠を超えて参加できるようにしました。

また平成三十一年度の一番大きな見直しとして、バザー開催曜日の変更と規模の縮小があります。平成三十年度まで土曜日開催であったバザーを平日開催にすることで、子ども向けコーナーをなくし、今までの全員参加のバザーから、バザー委員が運営するバザーへ見直しを行いました。これにより、バザー当日の活動はもちろん、バザー開催までにクラス、学年単位で行っていた保護者全員が参加する活動がなくなり、保護者の負担が大きく軽減されています。

③意識改革

PTA活動に参加することで、子どもたち、幼稚園と積極的に関わり、子どもたちの成長を見守るために幼稚園と家庭が一致団結することの重要性を認識し、保護者一人一人が参加する意識をあらためて持てるよう周知していきます。具体的には、新入園児保護者会で一人一役制の趣旨を説明する、在園時保護者にアンケート結果の報告、要望等への執行委員会として

の回答を行うなど、保護者間のお互いを助け合う気持ちを育んでいきたいと思えます。

六. 結びに

青桐会は昭和二十五年に発足して以来、今年で七十年となりました。子どもたちの幸せ、健全な成長を願って、PTA活動が絶え間なく続いてきたことに感謝すると共に、その活動の一助を担えたことは誇りです。

PTA活動に正解はないと思います。時代の変化に即して試行錯誤を繰り返して、不測の改善を続けていくことがPTA活動だと思います。

本園の入り口には、かつて本園の園長も務められました駐田二郎先生の彫刻とレリーフが飾られています。その題名には「幼き日々にしあわせを」と記されています。子どもたちの幼き日々にしあわせを願う、PTA活動に取り組むその姿はいつの時代も変わらないのではないのでしょうか。

指導助言

I

文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 家庭教育支援室 室長補佐

榎木 奨悟



最初に長野県松本市の庄野さん

のご発表を聞かせていただきました。その中で幼稚園を選んだ理由の一つに、先生との距離が近いところというお話がございました。

保護者の方と幼稚園の先生方や関係者の方との距離が近ければ近いほど、お互いが本音で話し合える関係性がつくれる。全ての幼稚園やこども園がそうなってくればと思っているとどこではございませぬ。

PTAという団体は社会教育団体として一応位置付けられています。子どものためにさまざまな活動をされているとは思いますが、保護者の皆さん自身にとってもそこが楽しみの場であり、学びの場であるというのは本当に大事なことだと思っています。

特に体験活動で面白い体験みたいなものもなかなかないと思うんです。そういう意味で子どもにとっても非常に大きな体験だと思えます。

それ以外に四十五年間続いているコーラス部という伝統があるものと、一方で一年ごとに切り替えていくという申請型のサークルというのもつくられているようで、両方の使い分けもきちんとされているというのも本当に素晴らしいなと感じたところです。

市内全体での交流とか違うところを見て、他の団体でやられているところ、他の幼稚園や子ども園で活動されている内容とかを知る

ということが、自分たちの活動を見直すということにも多分つながっていくと思います。活動に関わる方にとっては、身体的、時間的には、拘束されるものではありませんので、いかにそこをうまく楽しんでやれるかということを考えてながら、取り組みを進められているところは非常に素晴らしいと感じました。

続きまして、群馬県邑楽町の橋爪さんの事例、素晴らしい環境の中でいろいろと活動にも取り組まれている、PTA新聞をまとめる作業は、保護者同士の交流の場、いろんな人に知ってもらおうと思うことで新聞を作る作業というのは、恐らく自分自身にとっても新しい発見とか、新しい興味が膨らんでいく活動なのかなと思いました。

古紙回収を地域の隣近所の方にお願いをするのも、まさに地域のつながりづくりにも実はなっているんじゃないかと思えます。そういう意味でも本当に社会教育だと改めて感じたところです。

夏祭りや、PTA活動を通じて夫婦の仲も取り持っていただけというところであれば、本当にPTA活動は素晴らしい活動なんだなとあらためて思ったところです。

三番目、岡山県、岡山大附属の宮下さんのお話でございますが、最初に幼稚園の教育目標に「自主自律 豊かな心でたくましく」という言葉がございました。まさに

日本、世界、全ての人の自主自律で豊かな心でたくましくというのは、本当に素晴らしいスローガンだなと思えました。

小中高校ではコミュニティ・スクールを考えると、学校がいかに地域とつながるかみたいな話には常に課題としてあって、そこも附属幼稚園であれば、きちんと地域とのつながりを持たれているというのには素晴らしい、大正時代から親子ぎるなど、伝統芸能が、きちんと紙の記録として残っているというのには、紙の力はやっぱりすごいなと思います。デジタルデータでは、もしかしたら何十年後には読めなくなるものも、紙は百年たっても二百年たっても、それこそ千年たっても見る人が開けば見えるというもので、きちんと紙に残しておかないといけないんだなと改めて感じたところです。

また、全員参加型で一人一役の制度を導入されていて、さまざまな活動をされている中で組織の見直しをしたりとか、スマート化という形で図っていくというのは、これから時代によって変わっていくかなければいけない部分と、大正時代から変わらないものや、やっていく、やり続けていくということと変わらないうものをやっていくことは、本当に大切なことだと思えます。全国にはさまざまなやり方やさまざまな思いでいろんなことを考えて取り組まれているという事例を、どんどんより

素晴らしい示唆に富んだ発表をしていただけたと思います。それぞれの園の工夫が、今日会場にいらしている皆さんの園の参考にたくさんなるのではないかと思います。PTAは、いろんなやり方があるよ、というヒントとして今日の発表を持ち帰っていただけたらいいかなと思います。

まずは本郷南幼稚園です。実は僕は長野の出身です。風の子というシンボルになる像があり、子どもたちのことを「かぜのこ」と呼んでいます。最後の岡山の青桐会などは、ネーミングが子どもたちにとってのアイデンティティーになっています。保護者や地域や先生たちにとっても子どもたちをこんなふうに着たいというシンボルになる言葉だったという像だったりするんじゃないかなというふうに思っています。

いるという事例を、どんどんより広く多くの人に知っていただくというところは、本当に重要かと思えました。

指導助言

II

全国国公立幼稚園こども園長会 会長

新山 裕之



三人のPTA会長さん、とても素晴らしい示唆に富んだ発表をしていただけたと思います。それぞれの園の工夫が、今日会場にいらしている皆さんの園の参考にたくさんなるのではないかと思います。PTAは、いろんなやり方があるよ、というヒントとして今日の発表を持ち帰っていただけたらいいかなと思います。

まずは本郷南幼稚園です。実は僕は長野の出身です。風の子というシンボルになる像があり、子どもたちのことを「かぜのこ」と呼んでいます。最後の岡山の青桐会などは、ネーミングが子どもたちにとってのアイデンティティーになっています。保護者や地域や先生たちにとっても子どもたちをこんなふうに着たいというシンボルになる言葉だったという像だったりするんじゃないかなというふうに思っています。

いるという事例を、どんどんより広く多くの人に知っていただくというところは、本当に重要かと思えました。

「親の笑顔は子どもの笑顔」というすてきなキャッチフレーズ、皆さんの園でも多分園長先生が園の経営方針を出すときに、何かそういうキャッチフレーズみたいなものを出していると思います。僕は青南という幼稚園なので、「青南をみんなの心のふるさとに、心の根っこを育てよう」ということを園経営の中心に据えてやっています。そういう思いがあるということ、改めて大事だなと思いました。

三つの園それぞれに共通する部分の話になりますけれども、本郷南幼稚園で文集が教育的に大きな意義を持っているんじゃないかなと思います。一人一人が親に愛されているという安心感がどれほど大事なかということ、子どもたちに伝える機会になっていないかなというように思っています。

それから、買い物ごっこは、子どもたちが遊びに使えるようなものを作りされていたと思うんです。年少の子は、年長の動きがモデルになり、年長の子たちは、お父さん、お母さんたちのあの動きがモデルになって、子どもたちの育ちにつながります。

また、園長先生方は「このPTAの総会ってこういう意味があるんだよ」というのを、しっかりと伝えていく役割があり、今回はPTAの方たちがみんな得手分けし

てやろうよという発想でやってくださったことで役員もハッピー、会員の皆さんもハッピーという形に終わって素晴らしいなと思いました。

最後に、PTAは緑の下の力持ちでいいんですとおっしゃってくださっていました。本当にありがとうございます。感謝しながら、幼稚園としても一生懸命頑張りますというのを、ここにいる園長を代表して言わせていただきたいです。

それから、橋爪さん、ありがとうございます。PTA活動がご母さんたちだけのものではないというところをしっかりとお伝えいただいたかな。

除草活動とか、大人が背中を見せる、子どもたちはしっかりと見ているはずですよ。

夏祭りのところは、感動体験を共有するという意味合いがあるんじゃないかなと思います。自分家族や地域の一人であるという安心感が感じられるんじゃないかなと思います。

役員になると、時間も拘束されますし、いろいろなことが負担になる。しかし、さっきの終わった後、やっぱりこういう経験ができて、人とのつながりができたなというところがありました。幼稚園

小学校や中学校になったときのPTAの元になる人とのつながりになりますし、地域のことをしっかりと考えてくださる素地をつくってくれているんじゃないかなと思います。PTA活動としてみんなのためにやってみよう。結果として自分の子も、それから地域の周りの子どもたちもよく育つということに気付いていらつしやる。そういう方たちが小中高校、そして、子どもたちが大きくなっても民生委員さんとか、青少年委員さんとか、いろいろな形で応援してください。全幼Pの会長さんや副会長さんや各地の役員をされている方たちは、皆さんそうです。

それから、岡山の宮下さん、本当にありがとうございます。新しいことをやっていたこと、僕は言っていますが、子どもとの共有体験を大事にするという思いがあればこそ活動が続いているんだと思います。

それから、一人一役制のことで、これはとても重要なことだと思っています。保護者の皆さんは幼稚園の先生たちとは違うプロフェッショナルな部分をもっていますし、さっきの歌もすてきな歌でした。皆さんもうちよつと聞きたかったですよ。最後のフレーズのところで「背中を押すもれば」というのがありましたよ。背中を押すもればびんなんて、何ですてきなフレーズかと思いました。

われわれは子どもの背中にそっと手を添えて、「頑張れよ、何かあったら必ずサポートするからね。」という思いで子どもたちを育てているつもりです。どの園でも先生方はそういうふうに行っているはず。その思いをあの歌の中に込めてくれているなということを感じました。素晴らしいなと思います。

さつき羽田さんお話の中で、弱音を吐いてもいいんだよと、真つすぐな木ではなくてもいいんだよという話がありました。『完璧な親なんていない!』という本があるんですね。子育てを支援する本であるんですけども、完璧な親なんかいない、完璧な子どももない、完璧な先生もいない、みんな少しづつ足りないところがあるから、みんなで力を合わせて、できるところを頑張る。頑張るんだだけでも無理しないで、できるとき無理せず楽しくというのをキーワードに僕は連携をしています。すけれども、ぜひそれぞれの園、それぞれの地域で今日の三つの園のご提案をぜひ参考にしていただきながら、いいところを取り入れてやっていただけたらいいなと思います。

ぜひPTA活動の意味を、大変かもしれない、大変な部分がないとは言わない、でも、やることでお母さんたち同士のつながりが付きますよ。地域の仲間をつなげる

PTAになってほしいなと思います。

今日、皆さんの資料の中にわれわれの園長会の資料を一枚だけ入れさせていただきました。この中にも家庭、地域との連携、保護者が安心して子育てができることは少子化対策や地域の活性化にもつながります。PTA等とも連携し親子活動や子育てに関する相談なども充実させていくことを挙げています。ぜひ国公幼がしっかりと残り、そしてPTAとも力を合わせて地域の子どもたちを育てていきたいと思っています。



記念講演

夢をもつことのすばらしさ

～幸せに生きるために～

女優 羽田美智子氏



淡いアースカラーのワンピースに身を包んだ羽田美智子さんが会場に登場すると、会場は待ちかねた参加者の歓声に包まれた。全幼

元年の今年、実家の商売の六代目店主を継承して、ネットショップで同じ屋号を持つ羽田甚商店をオープンさせている。

求めるなら人と比較することをやめるべきであると語る。優秀な子の自殺が増えていると、高校の教頭である実兄から聞くという。

P茨城大会記念講演は、女優羽田美智子さんが、「夢をもつことのすばらしさ～幸せに生きるために～」というタイトルで、三十一年間の女優業を通して、大切に

きっかけは、劣等感のないように優越感を持たせるような教育というのを心掛けてくれた尊敬すべき母を楽にしてあげたいという思いだったと語った。

真つすぐな木は枯れやすいという老子の話しを引用しながら、上に伸びるだけでなく、一度逃げ道をつくってあげてもいいとのアドバイスがあった。

思ったことや、自分の生い立ちを振り返って、今の子どもたちに伝えるメッセージとして行われた。

子どもの夢に、夢中になれることは幸せに変わるものである。好きなことが見つからない子に対しては、できていることを褒めてあげ

今の教育現場は、先生方も板挟みに遭って大変な世の中である。少子高齢化が進む日本において、子どもは本場に日本の宝物、財産

羽田美智子さんの生い立ち、女優になったきっかけ

好きなこと、夢中になれることは幸せに変わるものである。好きなことが見つからない子に対しては、できていることを褒めてあげ

子どもは本場に日本の宝物、財産である。子どもたちが不当な扱いや虐待で目の前を暗くしないほしいと語った。

大事にしている言葉。

羽田美智子さんは、茨城県常総市（旧水海道市）生まれ。十八歳まで過ごした実家は、百五十年以上続く羽田甚商店というお店。両親の高齢化に伴いお店を一度は閉

最後には「感謝」という言葉に引き着く。三十一年間の女優生活は決して平坦な道のりではなかった。でも、今は女優を続けてきて良かったと心から思っている。女

親の高齢化に伴いお店を一度は閉じたものの、親友が作るアロマミストの販売をきっかけに、本格的にネット上での販売を開始。令和

さらに、幸せに生きる生き方を送られた。

さらに、幸せに生きる生き方を送られた。

さらに、幸せに生きる生き方を送られた。

優をやってきたからこそ出会えた人もたくさんいる。自分の人生において、常にいいことを想像して生活できたのは、母のおかげだと感謝している。それを支えてくれた家族、いい仲間にも恵まれ、すてきな友達もできた。これは決して当たり前なことではない。この、感謝の言葉を最後にして講演会が幕を閉じた。

九十分にも及ぶ講演を通して、羽田美智子さんの人となりに触れ、会場は一樣に、彼女の温かい優しさに包まれた。子どもの可能性を認め、ほめ、励まし伸ばすことの尊さ。感謝の心をもって前向きに生きるこの大切さについて、決意を新たにできた講演会であった。



令和元年度 表敬訪問・理事会報告

令和元年度表敬訪問

期日 令和元年七月十一日(木)

会開催は令和七年度、研究協議提案県は令和三年度まで決定済の報告があった。

全幼P猪木会長、副会長三名、事務局長、国公幼新山会長、副会長三名、事務局長の九名が文部科学省へ表敬訪問を行った。そして、国公立幼稚園・こども園の実情をお話しさせていただいたり、諸問題についてお願いをしたりした。

令和元年度理事会報告

第一回

期日 八月九日(金)

場所 つくば国際会議場エポカル

未知の世界宇宙に一番近いJAXAを有する茨城の地において、各県の代表による熱気あふれる理事会が行われた。

猪木会長、の挨拶の後、草間大会運営委員長から大会の概要説明、国公幼新山会長の挨拶の後、平成三十年会務・決算報告、本年度活動方針、事業計画・予算報告、優良PTA文部科学大臣表彰、全幼P会長表彰・会長感謝状贈呈等について報告をした。また、令和二年度富山大会、令和三年度新潟大会について報告があった。大

第二回

期日 十一月十四日(木)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

猪木会長、万里小路顧問挨拶の後、茨城大会について草間運営委員長からのお礼の挨拶があり、大会が成功裏に終わったことを確認した。

続いて、令和二年度の活動方針・事業計画案・富山大会について、要望内容等を協議した。また、今後の大会開催県、研究協議提案県の確認をした。その後、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課家庭教育支援室 榎木奨悟室長補佐の話を拝聴した。

第三回

期日 二月十四日(金)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター(開催予定)

おもいでづくり

「子どもと共に育ちあう」

みんなの笑顔のために

静岡市立大谷こども園

園長 丸山 智子

この度、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会に於いて、優良PTA文部科学大臣表彰という栄を賜りましたこと大変嬉しくありがとうございます。

歴代のPTA役員・会員の努力地域の皆様のご理解とご協力の賜物と感謝しております。

本園は、静岡市の南部、駿河湾に面したのどかな住宅地であり、生活環境が安定した地域にあります。自治会や学区の小中学校と連携をし、地域ぐるみで子どもたちを育てています。

今年度、四十一名の園児が在籍しております。近年、園児数の減少、共働きの増加によりPTA活動の精選が一層必要となつていますが、保護者同士のつながりや親子の育ち合い、園や地域の連携に

は欠かせないものと考え、協力しながら進めています。

「組織の紹介」

本園では、執行・学年代表・施設・リサイクル・防犯交通・バザーの委員会があり、全員がいずれかに所属し、活動を行っています。

各委員会は、一人一人の思いを尊重し、活動しやすい状況を作り出すため、作業をまとめて回数を減らしたり、分担したり、得意なことを発揮する場を作ったりするなど工夫して取り組んでいます。

「リサイクル活動」

町内会のリサイクルワークと連動し、毎月の定例会への参加、地域古紙回収を行っています。本年度は今まで毎月行っていた回収を



隔月にしました。子どもたちは、家庭から古紙を持って来て自分で回収ボックスに入れていきます。また、市主催の環境教育に親子で参

加し、資源分別などを教えていただき、地球の資源の大切さを学びました。

【津波避難訓練】

海抜八メートルの場所にあり、放水路も近く、大きな地震が発生した場合は津波の危険性が高いと予想されています。そのため、地震発生後は、五分で避難できるように毎月、津波訓練を行っています。園児は、約六〇〇m先にある高台の公園まで全速力で走りま



す。防犯交通委員会の保護者の方は、交差点で交通整理を行ってくれます。火災発生に備え、初期消火訓練も行いました。園児の真剣な姿を見て保護者も安全管理の意識が向上し、家庭でも家族一人一人がどのように行動したり、連絡をしたりするかの確認が行われています。

【親子講座】

毎年、学年代表委員が中心となり講座を開催しています。園児講座は、昨年度の静岡県読書活動推進モデル園としての取り組みを生かし『お母さんが読む絵本の会』を開催しました。昔話、知識、創作、人気の絵本等の読み聞かせを実施し、園児は絵本の世界に入り、お話をたっぶり楽しむ姿がありました。



保護者講座では、園児にも読書指導をしてもらっている読書アドバイザーから本の選び方や読み聞かせ法を学びました。質疑応答も活発なものとなり、アンケートでは「もっと絵本を多く読んであげたい」「読み聞かせの時間を大切にしたい」など絵本への関心の高さを感じました。その後の絵本貸出

日には、親子で楽しみにしている姿も見られました。

【子どもとの野菜作り】

食育活動のひとつとして近隣の畑をお借りし、さつま芋やじゃが芋の栽培を行っています。園児は各自ペットボトルに水を入れ、水かけや草取りに出掛け、施設委員の方も、ひんぱんに手入れをしてくれま

す。収穫の日には共に感動を味わい、喜び合いました。本年度は、園児がもっと身近に野菜の成長を見届けるように、園内のプランターでも野菜栽培をしました。朝、委員の方も子どもたちを登園させたその足で子どもだけでやり終えない作業を行ってくれました。作業しながら、委員同士が子育てなどの会話をし、親睦を深めている姿があります。

【地域団体や近隣学校との連携】

町内会組織の一員として諸団体の会合や行事に各担当者が参加しています。小学校のPTAと交流を持つことで入学後もPTA活動に積極的に参加する姿があるようです。また、町内運動会には、園児、保護者が多くの種目に参加し会を盛り上げています。

【終わりに】

PTA活動は、会員の実態に合わせ、無理なく、楽しく、気軽に行えるように組織改編や活動のスリム化を試みながら、保護者同士のつながりを深めたり、子どもの成長を見守ったりすることの素晴らしさを実感しています。

「共に進めよう
しながわひろえるひろいPTA活動」
子どもも親も 笑顔いっぱい
三木町立氷上幼稚園
園長 大野 桂子

今後子どもを真ん中に家庭と園とが協力し、みんなが育ち合うPTA活動を目指して取り組んでいきたいと思

この度、令和元年度優良PTA員として活動して下さっています。

PTAの運営方針

文部科学大臣表彰をいただき、誠に光栄に思います。これもひとえに歴代の会長をはじめ保護者の皆様、温かい地域の皆様のご理解ご協力の賜物です。心より感謝しております。

四国八十八ヶ所お遍路やうどんで有名な香川県。その中心である高松市の隣に位置する三木町は『子育てがしやすい町』を目指し、様々な支援事業を行っています。そのこともあり、新興住宅が増えてきており、町外、県外からの転入も増えてきました。

時代に合わせた

本園の園児数は三歳児十七名、四歳児二十五名、五歳児二十七名の計六十九名です。全保護者が会

近年、共働き家庭が増えたこと

PTA活動を目指して

により、教育課程時間外の保育(早朝・預かり保育)の利用が多くなり、家庭環境・子育て環境が大きく変わりつつあることから、これまでと同じ組織・活動形態では会員もPTA活動に参加することが厳しいという意見が出ました。そこで、各部活動の内容を精選し細分化しました。また、PTAの意義や活動を理解してもらえるように、掲示板や幼稚園のブログなどで情報発信を行っています。また、もっと具体的に活動内容を知りたいという声から、新入園周知会で詳しく伝えたことで、自分に合った活動内容や活動時間を選ぶことができました。

ス会の企画や運営、絵本の読み聞かせ、草ぬきなど「得意なこと」がなくても、自分が楽しむこと、子どもたちが喜ぶことなら」と楽しく活動してくれています。時には保護者の方だけではなく、園児の祖父母や兄弟なども参加して、園を盛り上げてくれています。



ボランティア活動の充実

PTA活動とは別にボランティアの方を募っています。クリスマス



「ハッピータイム」

保護者同士の交流や情報交換の場となつてほしいと毎年六月と九月に二回実施している「ハッピータイム」。第一回目は「お茶会&らくらくヨガタイム」を行いました。二回目は「みんなで楽しくチャクタイム」裁縫が得意なお母さんや髪留めなどを作り、楽しい時間を過ごしました。



『子どもの笑顔のためにまずは大人が笑顔いっばいになる！』

同じ時代に同じ世代の子ども達を育てている人たちの居場所でありたいPTA。しかし保護者同士のつながりの場となるPTA活動も、時代とともにあり方を変えていかなければ存在自体が厳しく

なってきました。そこで、負担感を払拭するためにも開かれたPTA活動を目指し、自分のスタイルで活動できる魅力を増やそうと、会長を始め役員と取り組んで参りました。『子どもの笑顔のためにまずは大人が笑顔いっばいになる』をモットーとして今後も活動を進めていきたいと願っています。

**「つくる」「かかわる」を大切に
保幼小連携を生かしたPTA活動**

品川区立台場幼稚園

園長 木村 巳典

この度、平成三十年度優秀PTA文部科学大臣表彰をいただきました。このような名誉ある賞を受賞することができましたのは、全国国公立幼稚園・子ども園PTA連絡協議会の皆様、そして、歴代の会長を初めとする熱意溢れるPTAの皆様や先生方のご努力と、地域の皆様の温かいご支援があつてこそと、心より感謝申し上げます。本園は、隣接する品川区立台場保育園と、幼保一体施設「のびっこの園台場」として運営をしております。また、台場幼稚園は台場小学校と同一施設であり、保幼小の連携を推進しながら教育を進めております。台場幼稚園PTA活動は、全保護者が一人一役をもって、園の職員と協力しており、台場保育園や台場小学校PTAとも連携を図りながら、円滑で充実した活動を展開しております。旧東海道品川宿のほど近く、祭りが盛んで賑わい、人情溢れる地



域に存在する本園は、園・家庭・地域が互いに信頼し、協力しながら、愛情深く子どもたちを育てています。「健康でたくましい子ども、心豊かに表現する子ども、考えて創り出す子ども」という教育目標に基づき、「つくる」「かわる」を大切に、子どもたちの心豊かな生活を願い、園・家庭・地域がつながりを深めながらPTA活動を進めています。



広報紙「台場幼稚園PTAだより」

「つくる」～PTA広報誌を通して園と保護者とのつながりを～

毎年、新年度の始まりには、広報委員会による親子写真の撮影がスタートします。それぞれの親子の笑顔が引き出された写真と名前を掲載した広報誌が作成されます。新入園の保護者同士はもちろ

ん、預かり保育を朝七時半から夕方十八時半まで実施している本園では、送迎時になかなか会う機会の少ない保護者同士なども、この広報誌を通して知り合うきっかけとなっています。また、全園職員の写真もそれぞれのメッセージと共に掲載され、時間帯により直接会うことの少ない職員と保護者をつなぐ架け橋でもあります。

保護者同士、そして全園職員と保護者とのつながりを「つくり出すスタートの土台として、この広報誌が活躍してくれています。

「つくる」～保育園との連携や充実した行事運営～

「夏まつり」と「のびっこ園運動会」は保育園と連携して実施します。夏まつり・運動会委員会は、保育園PTAとの連携を図りながら、計画的に準備を進め、園と協力して、子どもたちの豊かな経験を支えています。

「夏まつり」では、ヨーヨー膨らましやチケットの作成などの出店の準備や、受付・誘導など縁の下力持ちとなって円滑な行事運営を支えています。「運動会」においても、受付・パトロールなど運営のサポートの他に、PTA競技運営の参加・募集、活躍によ

り、競技を盛り立て、親睦を深めることにつながっています。保育園と連携した組織を「つくり出しながら、子どもたちの笑顔いっぱい、一人一人が輝く場となる行事の運営を支えています。

家庭教育学級では、年間を通して、毎年様々に趣向を凝らした企画・運営を行っています。その中では、シャボン玉マジシャンの方をお招きして、親子で一緒にシャボン玉ショーに参加し、身近な素材を使った実験や不思議現象に驚いたり喜んだりしながら、興味・関心を高め、探求心や知的好奇心を育みました。

「かわる」～様々な講師をお招きして～

また、保護者の関心の高さから「キッズマネーセミナー」を開催し、マネーコンサルタントの講師による講演にて、子どものお金に対する感覚の育て方や、お小遣い事情、また教育に掛かる費用についてなど様々な観点からお話をいただき、その専門的な観点からのお話は有意義なものでした。

さらに、台場小学校との連携を生かして、学校給食提供による「給食試食会」では、小学校の栄養士から学校給食で重要視されている

ことを聞く機会をもちました。また、副校長による「台場小学校案内・学校説明会」を実施し、学校施設を実際に見学して解説を聞いたり、就学に向けての不安や疑問を相談したりして、就学への期待や安心感を得ていました。

このように、様々な講師の方との「かわり」の場を提供することで、日頃できない体験との出会いや視野を広げるきっかけが、子育ての充実につながっています。

「終わりに」

令和元年度から、台場幼稚園長が、台場小学校長、幼保一体施設「のびっこ園台場」施設長の三役を兼ねています。この特徴的な施設を生かして保幼小連携を推進しながら運営する中で、それぞれPTA活動もこれまで以上に連

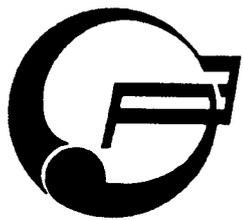
携を図りながら、家庭・地域・職員と一体となって、活動を充実させていきたいと考えています。この度の幼児教育の無償化という大きな変化のもとに、保育の質の向上が一層求められる時代であり、幼児期の教育は、園と家庭と地域とが一体となって子どもの成長を支えていくことが何よりも大切なことであり、その絆を強化したPTA活動の充実こそが、子ども

の幸せと笑顔を守り続けていくのだと思っております。今後この温かな協力体制をくださる地域と、また園に対する理解深く熱意に溢れる保護者の方々と、豊かに「つくり」「かわり」合いながら、台場幼稚園PTA活動のさらなる充実を目指してまいります。

だと思っております。



「シャボン玉サイエンスショー」



全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会章

第58回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

富山大会ご案内



後援：富山県

大会主題 とことん富山で やさしい心をもちよって まあるく和になり
語りんまい 子どもの未来を！
期日 令和2年8月7日(金)・8日(土)
場所 オークスカナルパークホテル富山 富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)
役員会・理事会・情報交流会 総会・大会

第五十八回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会富山大会

富山大会運営委員長 森瀬 忠克

第五十八回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会富山大会運営委員長の森瀬忠克と申します。
会員の皆様の日頃のPTA活動へのご理解とご協力に心から敬意を表します。

第五十七回茨城大会では、草間大会運営委員長をはじめとする皆様のご尽力で、幼児教育の重要性と家族の役割の大切さ、そして育児の素晴らしさを再確認いたしました。次は、富山の地で子育てについてとことん語り合い親力をさ

保護者が互いに、悩みを話し合う場をもち、子育てを楽しみ一人ではない、皆で楽しもうという、家庭・地域・行政が協力し合うようにと歩んでいます。

来る、二〇二〇東京オリンピックが開催される夏に『とことん富山で やさしい心をもちよって まあるく和になり 語りんまい 子どもの未来を』を大会テーマに富山市にて全国大会を開催いたします。

今こそ、子どもたちの未来のために何をすべきか。富山の地で全国の仲間の方々と語り合うことが大事だと思えます。

富山県は、海拔三千メートル級の立山連邦から水深一千メートルの富山湾まで豊かな山の幸・海の幸の宝庫です。自然豊かな地で美味しい物を味わい、心も体もリフレッシュしていただきたいと思

令和元年十月から、幼児教育・保育の無償化が始まりました。幼児教育に国が理解を示し、二兆円規模の「人づくり」のための新たな政策を閣議決定されたということです。子育て世代の我々にとつて誠に喜ばしいことです。しかし、子どもたちの受ける幼児教育や保育の質が良くならなければ、政府の掲げる「人づくり」にはつながりません。小学校入学前の子ども

富山県では、「親学び」という幼稚園や子育てサークル、地域の公民館等に集まり話し合う講座があります。回を重ね一定の成果をあげています。

富山県は、海抜三千メートル級の立山連邦から水深一千メートルの富山湾まで豊かな山の幸・海の幸の宝庫です。自然豊かな地で美味しい物を味わい、心も体もリフレッシュしていただきたいと思

活レベルに大きな影響を及ぼすという研究報告が相次いで発表され

子どもたちの受ける幼児教育や保育の質が良くならなければ、政府の掲げる「人づくり」にはつながりません。小学校入学前の子どもを題材に子育ての悩みや問題点を語り合い学んでもらう学習プログラムになっています。

令和二年八月七日(金) 八日(土)に開催します富山大会で全国の皆様をお待ちしています。

令和元年度 顧問・役員のご紹介

顧問

高橋 勝明 (元全幼P会長)
萬里小路 伸一郎 (前全幼P会長)
上枝 秀則 (元全幼P副会長)
今井 昇 (元全幼P副会長)

新司 英子 (前全幼P事務局長)
酒井 幸子 (元全園国公立幼稚園長会長)
岡上 直子 (元全園国公立幼稚園長会長)
池田 多津美 (元全園国公立幼稚園長会長)
荒木 尚子 (元全園国公立幼稚園長会長)
岩城 眞佐子 (元全園国公立幼稚園長会長)
関 美津子 (元全園国公立幼稚園長会長)
新山 裕之 (元全園国公立幼稚園長会長)
深町 芳弘 (元全園国公立幼稚園長会長)
楚阪 博 (前全園国公立幼稚園長会長)
佐藤 忍 (全園国公立幼稚園長会長)

役員

会長 猪木 直樹 (岡山)
副会長 大関 敏寛 (秋田)
中川 博喜 (東京)
吉田 尚 (愛知)
谷村 利貴 (大阪)
野々村 卓也 (島根)
山崎 篤史 (徳島)
清松 督雄 (大分)
箕輪 恵美 (園長会)

特任理事 永瀬 義剛 (熊本)
監事 広瀬 泰弘 (徳島)
星野 育代 (茨城)
小川 恵 (富山)

事務局

事務局長 角屋 純子
書記 守屋 恭子
会計 岡本 由美